

2025 年度卒業生アンケート報告と教育改善へ見直しへの活用について

教育イノベーション推進センターIR 部門

調査対象：大学 IR コンソーシアム卒業生調査 本学の卒業後 5 年・10 年・15 年の卒業生

卒業年月：2020 年 3 月（卒業後 5 年）、2015 年 3 月（卒業後 10 年）、2010 年 3 月（卒業後 15 年）

調査方法：Web アンケート

有効回答数：303 件 芝浦工業大学**【調査の実施概要】**

本調査は、本学の卒業後 5 年・10 年・15 年の卒業生を対象に、依頼ハガキを送付し、Google フォームで回答を求めたものです。回答期間は 2026 年 3 月初旬～3 月 31 日で、有効回答 303 件を得ました。依頼・回収状況は表 0-1 のとおりです。

表 0-1 2025 年度調査の依頼・回収状況

項目	2025 年度
① 依頼ハガキ送付数	3,127 通
② ハガキ返送数（宛所なし等）	63 通
③ 依頼数（①－②）	3,064 件
④ 回答数（有効回答）	303 件
⑤ 回答率（④÷③）	9.89%

※「② ハガキ返送数」は「あて所にたずねあたりません」等により返送されたものです。回答率は依頼数（③）に対する回答数（④）の割合です。過年度との比較は巻末の参考表を参照してください。

【卒業生調査 2025 年の要点】

本学の卒業生調査について、本学単独で集計した結果を報告します。今年度は他大学との比較は行わず、参考として本学の 2021～2025 年度の推移を示します。

1. 基本情報：回答者は卒業後 5 年（2020 年卒）39.0%、卒業後 10 年（2015 年卒）32.3%、卒業後 15 年（2010 年卒）28.4%。学部別では工学部 69.3%、システム理工学部 24.4%、デザイン工学部 6.3%です。
2. 授業や課外活動等の取り組み：正課の科目には熱心です。「卒業論文・卒業研究」（4.26）「専門科目（実験除く）」（4.25）が高く、外国語科目・資格取得・ボランティアは相対的に低い結果でした。
3. 在学中の成長実感：「専門分野や学科の知識」（4.45）「コンピュータの操作能力」（4.27）「分析力や問題解決能力」（4.22）が高く、外国語運用能力・グローバルな問題理解は相対的に低い結果でした。
4. 大学時代の留学経験：「渡航したことはない」が 71.5%を占めます。
5. 満足度：教育・研究は「とても満足」「満足」の合計 87.4%、生活全般は同 87.7%。いずれも過去 5 年で高い水準です。

6. 大学とのつながり：「同窓との付き合いを保っている」(44.2%)が多く、次いで「ゼミや研究室の集まり」(30.7%)。「つながりはない」も 26.1%あります。
7. 初職：志望どおり（第 1 志望＋ほぼ志望どおり）が 79.4%。96.4%が無期雇用（正社員）の就職です。主な業種は製造業(35.2%)・情報通信業(18.3%)・建設業(17.6%)です。
8. 転職・離職：経験者は 33.9%、「ない」が 66.1%です。
9. 現職：91.4%が無期雇用（正社員）。従業員規模は「5,001 名以上」(35.4%)が多く、職種は技術・研究職(56.5%)・IT エンジニア職(20.1%)が中心です。
10. キャリアパスの満足度：「とても満足」「満足」の合計 73.0%です。
11. 海外勤務・外国語使用：「外国語でメール等のやりとり」(33.6%)や「海外出張」(26.2%)の経験があります。
12. 身につける能力の重要性：「コミュニケーション能力」「人間関係を構築する能力」「分析力や問題解決能力」等の重要性が高く示されました。

1. 基本情報

(1) 回答者の卒業年

- ・回答者の卒業年は、卒業後 5 年（2020 年卒）39.0%、卒業後 10 年（2015 年卒）32.3%、卒業後 15 年（2010 年卒）28.4%です（表 1-1）。

表 1-1 卒業年（F2）

卒業年（区分）	人数	割合
2020 年卒（卒業後 5 年）	118	39.0%
2015 年卒（卒業後 10 年）	98	32.3%
2010 年卒（卒業後 15 年）	86	28.4%
無回答等	1	0.3%
合計	303	100.0%

(2) 回答者の学部

- ・学部別では工学部が 69.3%を占め、システム理工学部 24.4%、デザイン工学部 6.3%です（表 1-2）。

表 1-2 芝浦工業大学の学部

学部	人数	割合
工学部	210	69.3%
システム理工学部	74	24.4%
デザイン工学部	19	6.3%
合計	303	100.0%

※学部は回答された卒業学科（F1）を、機械・材料・応用化学・電気・電子・通信・情報・土木・建築系＝工学部、電子情報システム・機械制御システム・環境システム・生命科学・数理科学＝システム理工学部、デザイン工学科＝デザイン工学部として集計しました。

(3) 回答者の性別

- ・性別は男性 83.8%、女性 15.6%です（無回答 0.7%、n=302）。

2. 授業や課外活動等の取り組み（問3）

- ・在学中の各活動への熱心度（5：熱心～0：取り組まなかった）を尋ねました。専門教育系（卒業論文・卒業研究、専門科目、ゼミ・実習）の熱心度が高く、外国語科目・資格取得・ボランティアは相対的に低い結果でした（表2-1）。

表 2-1 授業や課外活動等の取り組み（問3） 平均値

項目	平均値
卒業論文・卒業研究	4.26
専門科目（実験除く）	4.25
ゼミや実習	4.17
専門科目（実験）	4.06
全学教育（一般教養科目）	3.77
アルバイト	3.36
部・サークル活動	3.09
外国語科目	3.05
資格の取得	2.25
ボランティア	1.71

※5点満点（5：熱心、4：やや熱心、3：どちらともいえない、2：やや不熱心、1：不熱心、0：取り組まなかった）の平均値。無回答を除く。

3. 在学中の成長実感（問 4）と身につける重要性（問 14）

- ・ 在学中に各能力がどの程度変化したか（5：大きく増えた～1：大きく減った）を尋ねました。「専門分野や学科の知識」（4.45）「コンピュータの操作能力」（4.27）「分析力や問題解決能力」（4.22）が高く、外国語運用能力(3.26)・グローバルな問題の理解(3.33)は相対的に低い結果でした。
- ・ また問 14 では、社会経験を踏まえて大学時代に身につける重要性を尋ねています。「コミュニケーション能力」（4.72）「人間関係を構築する能力」（4.66）「分析力や問題解決能力」（4.66）の重要性が高く示されました。
- ・ 両者を比較すると、コミュニケーション力・人間関係構築力・協働力など対人・協働系の能力で、社会での重要性が在学中の伸びの実感を上回っています（図 3-1）。

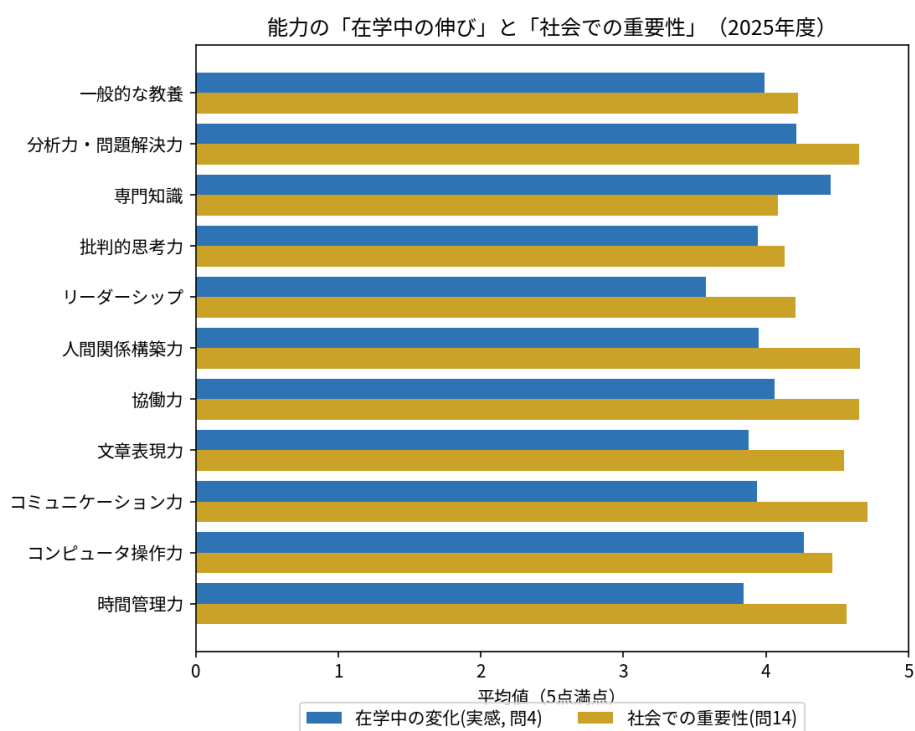


図 3-1 在学中の成長実感（問 4）と社会での重要性（問 14）

※いずれも 5 点満点の平均値。無回答を除く。

4. 大学時代の留学経験（問 5）

- ・「渡航したことはない」が71.5%を占めます。渡航経験がある回答者では「10 日以上 1 ヶ月未満」（16.6%）が最も多い結果でした（表 4-1）。

表 4-1 大学時代の留学経験（問 5）

区分	割合
渡航したことはない	71.5%
10 日未満	6.0%
10 日以上 1 ヶ月未満	16.6%
1 ヶ月以上 6 ヶ月未満	4.0%
6 ヶ月以上	2.0%

5. 満足度（問 6・問 7）

- ・本学の教育・研究への満足度は「とても満足」「満足」の合計が87.4%、大学生活全般の満足度は同87.7%と、いずれも高水準です。
- ・参考として本学の2021～2025年度の推移を見ると、両満足度ともに高い水準を維持しています（図 5-1）。

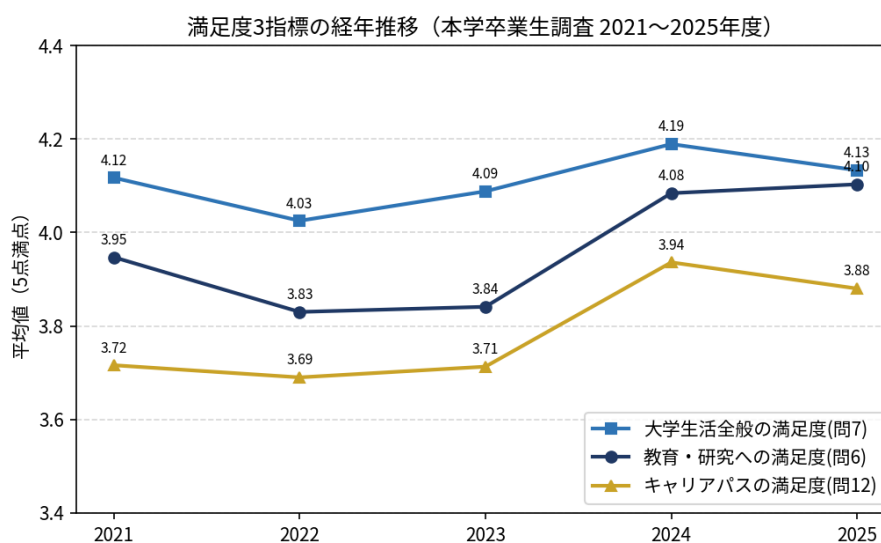


図 5-1 満足度 3 指標の経年推移（参考：本学 2021～2025 年度）

※5 点満点（5：とても満足～1：とても不満）の平均値。各年度の本学卒業生調査による。

6. 大学とのつながり（問8）

- ・「同窓との付き合いを保っている」（44.2%）が最も多く、「ゼミや研究室の集まりに参加」（30.7%）が続きます。一方で「つながりはない」も 26.1%となっています（図 6-1）。

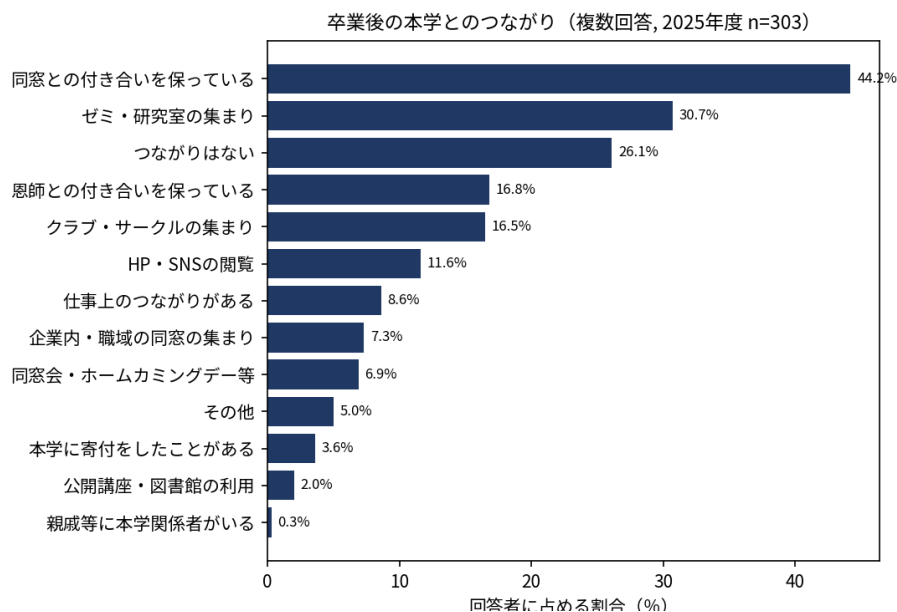


図 6-1 卒業後の本学とのつながり（問8・複数回答）

7. 初職（問 9）

- ・初職の就職先については、「第1志望」(41.5%)と「ほぼ志望どおり」(37.9%)を合わせ 79.4%が志望どおりでした。就業形態は無期雇用（正社員）が 94.4%を占めます。
- ・初職の主な業種は「製造業」(35.2%)、「情報通信業」(18.3%)、「建設業」(17.6%)です。就職先の選択では、安定性・職種・業種が比較的重視されています。

8. 転職・離職（問 10）

- ・転職・離職の経験は「ない」が 66.1%、「1 度だけある」(23.9%)「2 回以上ある」(10.0%)を合わせた経験者は 33.9%です。

9. 現職（問 11）

- ・現在の就業形態は無期雇用（正社員）が 91.4%です。現職の主な業種は「製造業」(33.7%)「情報通信業」(18.0%)「建設業」(16.3%)です。
- ・従業員規模は「5,001 名以上」(35.4%)「1,001～5,000 名」(24.8%)が多く、大企業に勤務する卒業生が過半数です。職種は技術・研究職(56.5%)・IT エンジニア職(20.1%)が中心です。年収は「600～800 万円未満」(38.5%)「400～600 万円未満」(25.1%)「800～1,000 万円未満」(23.0%)の順でした。
- ・卒業後の経過年数が長いほど管理職・監督職の割合が高まり、「一般職（役職なし）」の割合は卒業後 5 年 84.1%から 10 年 46.9%、15 年 33.3%へと減少します（図 9-1）。

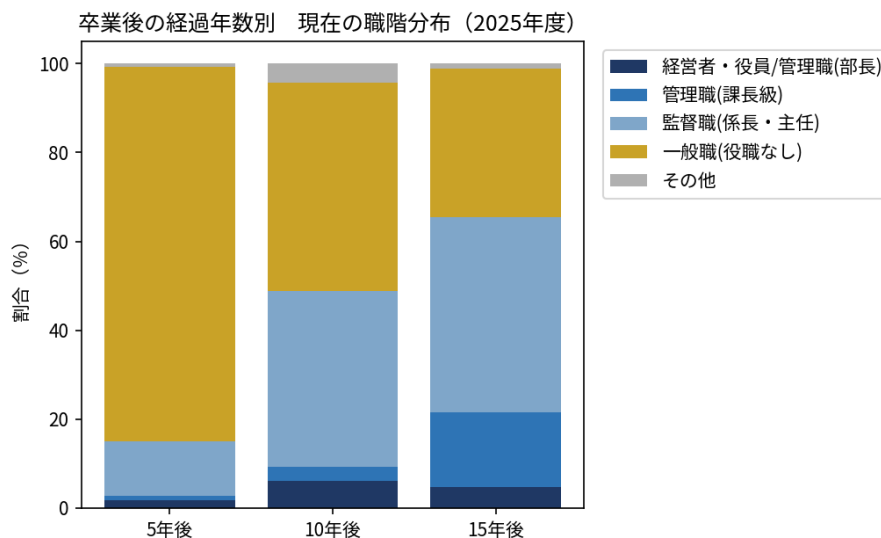


図 9-1 卒業後の経過年数別 現在の職階分布

10. キャリアパスの満足度（問 12）

- ・これまでのキャリアパスへの満足度は「とても満足」(23.7%)「満足」(49.3%)の合計 73.0%です。卒業後 5 年(3.96)がやや高く、経過年数による大きな差はありません。

11. 海外での勤務経験や業務における外国語の使用（問 13）

- ・「外国語でメールや文書のやりとりをする必要がある」(33.6%)、「海外出張の経験がある」(26.2%)、「外国語で会話や議論をする必要がある」(23.6%)の経験がある一方、「どれもあてはまらない」も 54.8%を占めます。

12. 大学生時代に身につける能力の重要性（問 14）

- ・社会経験を踏まえて重要とされた能力は、「コミュニケーション能力」(4.72)、「人間関係を構築する能力」(4.66)、「分析力や問題解決能力」(4.66)、「他の人と協力して物事を遂行する能力」(4.65)、「時間を効果的に利用する能力」(4.57)が上位でした（前掲 図 3-1 参照）。
- ・これらの対人・協働・問題解決系の能力は、在学中の成長実感（問 4）と比べて重要性が高く示されており、正課・課外を通じた汎用的能力の育成を一層重視する必要性を示唆しています。

13. 卒業後の経過年数（世代）による回答の違い

本調査は卒業後 5 年（2020 年卒）・10 年（2015 年卒）・15 年（2010 年卒）の 3 つの世代を対象としています。同じ設問でも、卒業からの経過年数（キャリアの段階）や在学当時の教育環境（世代）によって回答に違いが見られました。

（1）キャリアの進展による違い

- ・キャリアに関する指標は、卒業後の経過年数に応じて明確に上昇します。管理職以上の割合は卒業後 5 年 15.0%→10 年 49.0%→15 年 65.5%、年収 800 万円以上の割合は 14.4%→35.8%→45.2%、転職・離職の経験ありの割合は 20.7%→37.8%→47.7%へと高まります（図 13-1）。
- ・これは、経過年数が長い世代ほど職位・処遇が向上し、キャリアの中で転職も経験していく自然な流れを示しています。

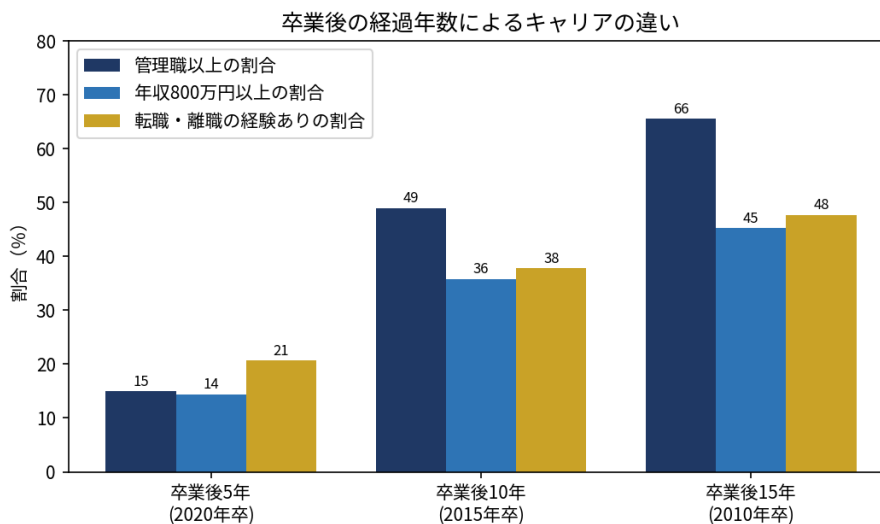


図 13-1 卒業後の経過年数によるキャリアの違い

（2）在学時の教育環境（世代）による違い

- ・在学中の留学経験がある割合は、卒業後 5 年の世代で 50.0%に達する一方、10 年 18.6%、15 年 10.5%と、直前に卒業した世代ほど大幅に高くなっています。「外国語運用能力が伸びた」という成長実感も、5 年 3.52→10 年 3.16→15 年 2.99 と直近世代ほど高く、本学の国際化施策の進展が卒業生の経験に表れていると考えられます（図 13-2）。
- ・また、大学の HP・SNS を閲覧している割合も直近世代ほど高く（5 年 15.3%→15 年 5.8%）、若い世代ほどオンラインで大学とつながる傾向がうかがえます。

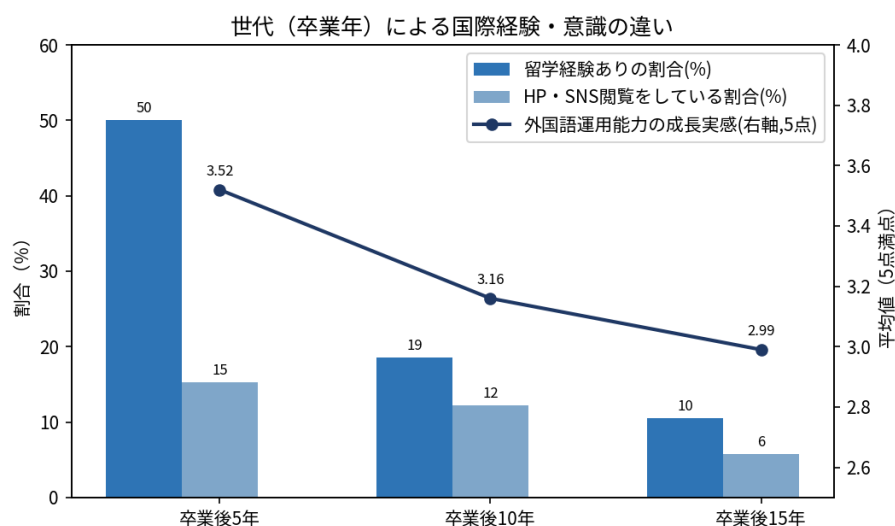


図 13-2 世代（卒業年）による国際経験・意識の違い

(3) 満足度・つながりの違い

- ・満足度は3世代とも高い水準ですが、キャリアパスへの満足度は卒業後5年 3.96→15年 3.74 とやや低下する傾向が見られます。教育・研究への満足度も5年 4.16→15年 4.05 とわずかに低く、直近世代ほど高い傾向です。
- ・大学とのつながりでは「同窓との付き合いを保っている」が5年 47.5%→15年 39.5%、「ゼミ・研究室の集まり」が5年 33.1%→15年 24.4%と、経過年数が長いほど関与がやや薄れる傾向があります。一方で「つながりはない」はいずれの世代も約 24～28%で大きな差はありませんでした。

表 13-1 卒業後の経過年数別 主要指標

指標	卒業後 5 年	卒業後 10 年	卒業後 15 年
管理職以上の割合	15.0%	49.0%	65.5%
年収 800 万円以上の割合	14.4%	35.8%	45.2%
転職・離職の経験あり	20.7%	37.8%	47.7%
留学経験ありの割合	50.0%	18.6%	10.5%
外国語運用の成長実感(5 点)	3.52	3.16	2.99
教育・研究への満足度(5 点)	4.16	4.09	4.05
キャリアパスの満足度(5 点)	3.96	3.92	3.74
同窓との付き合いを保っている	47.5%	44.9%	39.5%

※経過年数はキャリア段階の違い（加齢に伴う昇進・処遇の変化）と、在学当時の教育環境の違い（世代効果）の両方を含みます。両者は本調査単独では厳密には分離できない点にご留意ください。

以上

付録：データについて

- ・データソース：2025 年度 IR コンソーシアム卒業生調査（回答）（Google フォーム回答データ、有効回答 303 件）。設問・選択肢は大学 IR コンソーシアム共通調査票に準拠。
- ・集計方法：各設問の選択肢先頭の数値を用いて集計。無回答は除外。経年推移（図 5-1）は本学の 2021～2024 年度の卒業生調査データ（各年度の alumni CSV）と 2025 年度データを用いています。集計・作図は Python で実施し、個人を特定できる情報（自由記述等）は本報告に含めていません。

※本報告は本学単独の集計です。過年度報告にあった全大学・理系大学平均との比較は、今回のデータには比較対象が含まれないため行っていません。

【参考】依頼・回収状況の経年比較

参考として、依頼・回収状況の過去 4 カ年（2022～2025 年度）の推移を示します（表 A-1）。回答率は 2022 年度の 10.9%から 2023・2024 年度は 9%前後で推移し、2025 年度は 9.89%とやや回復しています。

表 A-1 依頼・回収状況の経年比較（2022～2025 年度）

項目	2025 年度	2024 年度	2023 年度	2022 年度
① 依頼ハガキ送付数	3,127	3,375	3,362	3,409
② ハガキ返送数（宛所なし）	63	61	61	67
③ 依頼数（①－②）	3,064	3,314	3,300	3,342
④ 回答数	303	298	295	365
⑤ 回答率（④÷③）	9.89%	8.99%	8.93%	10.9%

※各年度の依頼ハガキ送付数・返送数・回答数に基づく。回答率は依頼数（③）に対する回答数（④）の割合。